

データベースのブロックサイズの指定

テーブルのブロックサイズ指定

データベース・バッファ（・キャッシュ）の指定

データベースのブロックサイズとは、

オブジェクト（テーブル）などで、1度の物理 I/O によりディスクから読み書きするデータの単位です。

データベースのブロックサイズ指定

データベースのインスタンスを新規に生成するときに、ブロックサイズを指定します。

これが、標準のブロックサイズになります。

この値は、初期化パラメータ `DB_BLOCK_SIZE` に記録されます。

D/B 作成後に、標準のブロックサイズになります

ブロックサイズの標準値

通常は、8 K バイトです

これは、Oracle が稼働するサーバー OS のディスク・ブロック・サイズにて決められます (D/B 作成時に、標準値を変更することも可能)

標準以外のブロックサイズの作成方法

新たな表領域を作成するときにブロックサイズを指定すると、その領域内に作成するオブジェクトに対して、指定されたブロックサイズでデータ管理が行われます

ブロックサイズは、1 表領域に対し 1 種類だけです

また、1 つの Oracle インスタンスには、標準以外に 3 種類のブロックサイズの表領域が作成できます

ブロックサイズの種類

2 K、4 K、8 K、16 K、32 K バイト

テーブルのブロックサイズ指定

テーブルごとにブロックサイズは、指定できません

テーブルが作成される表領域で指定されたブロックサイズが使用され、テーブルが生成されます

ブロックサイズの大きさを変更する目的

1 つのレコードが非常に長いテーブルへのレコードアクセスを行うときは、大きなブロックサイズを使用すると、アクセス効率が良くなります

また、1 つのレコードが非常に小さくインデックス読取りで 1 レコードへのアクセスばかりを行うときは、小さなブロックサイズにして余分なデータを読み込まないようにした方が、アクセス効率が良くなります

データベース・バッファ（・キャッシュ）の指定

標準以外のブロックサイズを使用する場合には、対応したデータベース・バッファを用意する必要があります

これが、**nK** ブロックサイズ・バッファ・キャッシュです。

初期化パラメータ `DB_nK_CACHE_SIZE` で指定します